

令和3年9月10日

産業厚生委員会記録

阿久根市議会

1. 日 時 令和3年9月10日（金） 13時40分開会
14時33分散会
2. 場 所 第1委員会室
3. 出席委員 白石純一委員長、中面幸人副委員長、
川上洋一委員、竹原信一委員、木下孝行委員、
山田勝委員、濱崎國治委員
4. 事務局職員 議事係主任 松崎 正幸
5. 会議に付した事件
所管事務調査の具体的内容について
6. 議事の経過概要 別紙のとおり

○所管事務調査の具体的内容について

白石純一委員長

ただいまから産業厚生委員会を開会いたします。

本日の議題は、当委員会の所管事務調査の具体的内容についてであります。

前回までの委員会で4つの調査項目を決めました。1番が集落営農等の農業振興策、2番が市街地の活性化策、3番が観光の振興策、4番が水産業の振興です。

今回、7名の委員のうち3名が交代して新たに加わった委員であります。前期の委員会とテーマはほとんど変わらないのですが、どのような取組を行ったかはタブレット内の「所管事務調査まとめ」から見ることができます。これらを基に、今任期で具体的にどういったことを調査したいか、委員の皆さんからの御意見をお願いします。

中面幸人委員

1番の集落営農等の農業振興ですが、これは有害鳥獣問題も含んでおりますが、令和2年度から2年間いろいろ調査をしてみました。ジビエ処理施設のいかに阿久根は全国的にもモデル地区になった中、捕獲協会といくら関係との対立まで発展し、今のところまだ解決していないような状況ではありますが、あとはしっかりと行政の役割、捕獲隊の有害鳥獣捕獲事業の正しい認識と理解、そしてジビエ処理施設いかにの運営の方法について、対立から平常への軌道に乗るまでしっかりと行政主導でやってほしいと、それしかないと思っておりますので、この有害鳥獣についてはそういうことで一応終わるといふかそれぐらいにして、これからの2年間で私は農業振興についての調査を行ってほしいと思っております。例えば、耕作放棄地にしないよう環境整備に努めて、若者を含め後継者が安定した収入を得られるための持続可能な農業経営について調査を行ってほしいと思います。具体的な取組として、皆さんも御存知と思いますがエリアリノベーションという言葉がありますけれども、これはある地域や区域を限定して全体をデザイン化して、景観や機能性を考えてまちづくりをしていくという意味のものでございますけれども、子供などの後継者ではなくて、よそからの若者、あるいは農業に関心のある人がその地域に来て農業の経営が成功している、そういう地域があれば勉強してみたいと思います。今はコロナ禍で若い人たちが地方に来て農業をやりたいという流れもありますので、成功しているというところがあれば勉強に行ってみようかと。今、阿久根市でもいろいろな政策を取っておりますけれども、なかなか難しい面があるので。

白石純一委員長

ただいまの中面委員からの御意見は、耕作放棄地の解消対策、そして若年者の後継者を育てる、または受入れの環境を整える対策についてということによろしいですか。

〔中面幸人委員「そうですね、はい」と呼ぶ〕

具体的には、先進事例等も研究したいということです。そして、前期までやってきた有害鳥獣の問題については、特に今回は詳しくやる必要はないということですか。

〔中面幸人委員「はい」と呼ぶ〕

竹原信一委員

中面委員から先進地での事例をとのことですが、阿久根でもある程度成功しているようなところもあるので、まずは阿久根を調べましょうよ。

白石純一委員長

その内容についてはまた今後。今はテーマについてお願いします。

山田勝委員

先ほど中面委員が、もういかくらの有害鳥獣の問題は置いといてということですが、私は置いておくことではないと思うんですよね。私たちが中まで入ることは難しいけれども、阿久根市として何をすべきか。やはり解体できるように予算化してくれれば、後は持って行く人は持って行く、持って行かない人は持って行かない。まずは解体費用を予算化するようにお願いしないことには一歩も前に進まない気がします。

白石純一委員長

その対策はいろいろあるでしょうけれども、山田委員としてはいかくら等の有害鳥獣の問題については引き続き、当委員会としては調査をしたいということでもよろしいですか。

山田勝委員

解決するというのはなかなか難しいから、ただ解体費用について阿久根市はちゃんと予算化して出しなさいということです。

白石純一委員長

行政の支援を注視、調査していくことかと思えます。

ほかに、この1番について。

木下孝行委員

山田委員と同意見です。いかくら問題が解決しているわけではないということ。そして、市のほうでは減容化処理施設について、市長の所信表明でも施設の建設の話も出てきている中で、阿久根産のジビエの加工や流通ということで今までずっとしてきたわけで、ここ2、3年そういった活動はないですけれども、やはりこれだけ阿久根のジビエということで名を成したわけだから、やはり加工処理施設は残すべきだろうと。そして市が考えている減容化処理施設についても、同時に2つ施設を造るのか、それともどちらか一方に絞るのか、そういうことも我々は議論しないといけないと思えます。

白石純一委員長

木下委員の御意見は、やはりいかくらの問題、有害鳥獣対策も調査対象として加工の施設、あるいは減容化施設を今後どのように考えていくかということも含めて調査したいということかと思えます。

ほかに1番についてはよろしいですか。

〔発言する者あり〕

休憩します。

(休憩 13:54~13:55)

白石純一委員長

休憩前に引き続き、委員会を再開します。

いかくらの問題について、前回までの委員会で捕獲指示書の問題が積み残されているというようなことも考えられますので、その辺りも今回、有害鳥獣問題を扱う場合には入れる必要があると思えます。

山田勝委員

それももちろん確認しないといけないと思えます。あわせて、解体費を市が出してくれれば、私は持って行く人もいますよ。

白石純一委員長

今の山田委員の意見も加味して、いかくらの有害鳥獣問題に関しては捕獲から解体、そして加工、あるいは新たに減容化というような流れについて、果たして議会として執行部にどのようにチェック、そして提言していくかということが、このいかくらに関しての調査内容だというふうに理解してよろしいでしょうか。

木下孝行委員

私が危惧するのは、この減容化処理施設を新しく造ったときに、建設には2分の1から3分の2は国の補助金が出るのだらうと思えますけれども、後の維持は全て阿久根市がしていないといけないという中で、いかくらを残す場合は捕獲者に補助金を出していくと。今までと同じ額は難しいけれど、多少なりの補助金を個人に対して出すということを考えれば、今後の施設の運営であったり、それに伴う予算というのはかなり大きくなるということで、どちらかにするのか、それとも両方動かすのかという議論は大事だと思います。

白石純一委員長

実際どうするかは今後の調査ですけれども、先ほど申したように、捕獲から解体、そして加工、それに加えて新たに減容化というやり方も出てきているわけですから、それらの過程をどのようにすれば、この有害鳥獣問題の解決の糸口が見つけられるのかということ調査して執行部に提言していくという趣旨でよろしいですか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

では1番に関しては3点、1つ目は耕作放棄地の解消、2つ目は後継者の育成及びその環境の整備、3つ目は有害鳥獣対策で捕獲、解体、加工、そして新たな減容化を含んだ効率的な運用の是非について調査するというところでいいですか。

〔発言する者あり〕

一旦、休憩します。

(休憩 13:59~14:02)

白石純一委員長

休憩前に引き続き、委員会を再開します。

1番の集落営農等の農業振興策については、以上の3点をリストアップしたいと思います。

2番の市街地の活性化策について、具体的にどういったテーマを調査研究したいか、御意見をお願いします。

山田勝委員

阿久根市のまちづくりビジョンを見てみると、それぞれはよく頑張っていますけれどもつながらない。何でこういうつながらない計画をつくったのか分からないけれども、やはり市街地の活性化はまずは人が来ること。なかなか人が来ないじゃないですか。例えば、番所丘公園にオートキャンプ場を造る、そこに来る人を市街地に寄せるようなまとめ方というのは行政じゃないとできないわけですよ。ホテルがないじゃないか、国民宿舎はもういいですよ別に、でも市街地を見てみればかなりの宿があるんですよ。だからそういうまちぐるみでホテルを造ったり、小さな宿を造ったり、そして、まとめてやるものは市がまとめてやってという、そんなまちづくりをしないと阿久根の街は完全になくなりますよ。

前期の委員会のまとめの中に、青果市場跡は解体され、現在、市が跡地の購入について県と協議中とありますが、小耳に挟んだところでは市が買うことになったみたいですよ。

だからそれを今度、どういう形でにぎわいに、あるいは市街地の活性化につなげるのか、これは私は最後の財産だと思うので、みんなで考えていかないといけないと思いますよ。

白石純一委員長

山田委員の御意見は、それぞれの拠点がつながり、連携し、効果が得られるようなまちづくりが必要ではないか。例えば、その一つとして青果市場跡地のこと、あるいは番所丘公園のことなども含めて調査していくという御意見でよろしいですか。

竹原信一委員

非常にいい物を造ったら客が来るかと、そういうことではなくて、今の時代に何が求められているのか、そして何が嫌われているのか、そういったことをはっきり分かった上でターゲットを絞って物事はしないと、幾ら一生懸命やっても駄目なんですね。求められているものを明確化する必要があると思います。

白石純一委員長

竹原委員の御意見は、施設だけではなく、市外から来られる方、あるいは市内の方が何を阿久根に求めているかという、ソフトの分野におけるニーズを把握する必要があると。

竹原信一委員

プラスの面もマイナスの面も両方しないといけないと思います。マイナス面が妨害することがありますので。

白石純一委員長

先ほどの施設の整備をする上で、どういったニーズがあるのかという把握が必要だという御意見だと思います。

木下孝行委員

今後、道の駅の整備が進んでいくという中で、高速道路を使って道の駅に下りて、阿久根の情報を知って、阿久根に下りてくる人たちを呼び込まないといけないという意味では山田委員と同意見です。魅力ある街に人が集まるような、回れるような、見れるような、そういった仕組みをつくっていかないといけないと。そういう整備に関する意見を、我々議会も言っていかなければいけないとっております。これはすぐに結果が出るものではないので、1定例会に1回ぐらいは担当課と意見交換をする場があればいいかと思っております。そして、2番、3番は同じように扱っていいのかなと思ったりします。予算委員会でありましたけれども、阿久根の魅力発信事業ということで、今後市が取り組んでやっていくわけですけれども、コロナ禍以後の対応を含むというような内容もありました。我々はこのコロナがいつ収束か分からない状況でありますけれども、コロナ後に経済復興を遂げるスタートはどのような形でできるのかという議論もするべきだと思うので、その辺も2番、3番のテーマに入れてください。

白石純一委員長

木下委員の御意見は、2番の市街地の活性化策と3番の観光の振興策を合わせ、一つ目として、コロナ後を見据えたつながりのあるまちづくり。例えば新しい道の駅、番所丘公園、青果市場跡地など有機的につなげて、阿久根の活性化につなげる調査。そして、二つ目として、そのためには何が求められているのか、プラス・マイナス両面のニーズ調査という二つのサブテーマということよろしいでしょうか。

木下孝行委員

それでいいのですが、コロナ後の復興に向けての対応ということ言えば、今現在、市がコロナ対策をしていますよね、特産品の送料無料化とかペイペイであったりとか、飲食店の協力金であったりとか、中には今後も続けたほうが効果的なものもあると思うんです

よ。そういうのは委員会として、今後も続けてくれと言わないといけないと思いますので、そこも含めてください。

白石純一委員長

今の木下委員の御意見は、コロナ後を見据えて、コロナ対策もしっかりと継続していけるような施策を議会としても要望、チェックしていくということによろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

では、2番と3番を一つにするという御意見でよろしいですか。

濱崎國治委員

前は旧阿久根高校跡の整備も市街地活性化の中心的役割を果たすのではないかということだったのですが、もうこの1、2年ではそれが全然出て来ないのですけれども、それについては何もなかったんですね。

白石純一委員長

ただ、今はつながりのあるまちづくりということですので、今、具体的に上がったのは青果市場跡地、番所丘公園、道の駅ということでしたけれども、当然、阿久根高校跡地、あるいは国民宿舎跡地、こうしたこともつながりのあるまちづくりに考えてもよいことだと思いますので、その辺りの具体的な施設は限定せず調査することはいかがでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

濱崎國治委員

提言をしたのは何のあれだったでしょうか。

白石純一委員長

前任期のときに調査特別委員会で提言はいたしております。もちろん、その提言は死んだわけではなくて、それをさらに再調査及び検証することも可能だと思いますので、先ほどのつながりのあるまちづくりの一つの要素だとは言えると思いますので、そういった調査も可能にはなると思います。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

では、2番・3番をまとめて3点、1つ目は、コロナ後を見据えて現在のコロナ対策で効果的なものを継続するための調査。2つ目は、今、阿久根市の観光に何が求められているのかのニーズ、マイナス面も含めて把握するための調査。3つ目は、これらを基に市内の各地を結びつけ、つながりのあるまちづくりとするためにどのような施策が必要かの調査。以上の3点でよろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

それでは、2番・3番をくっつけて2番とし、4番を3番として水産業の振興とします。具体的な内容を御意見ください。

川上洋一委員

水産業の振興というのが、今までも現在もそうなのですが、阿久根の漁業者というのはおったもんを捕るというビジネススタイルなんですよね。ところが長島は稚魚から育てることを確立して出荷すると。同じ水産業でも大分違ってきます。水揚げ量もおったものを捕ってくるので30、40億止まり。ところが東町の場合は、それだけ飼料代や手間暇もかかるのですが100億超えているというのが実際です。私が1度見に行きたいと考えているのが大分県で藻場対策で駆除したウニを養殖している組合があるのですけれども、外国の資本と提携して研究している組合があるようです。我々の仕事ではなく漁協が本当はやるべきだと思うのですが、何か一つ、鹿児島県では阿久根にしかないというものを、例えばウニ問屋というのは鹿児島県で基本的には阿久根にしかないわけですから、阿久根の

業者があちこちのウニの磯を買い集めて取っているような状態です。市の観光の目玉でもあるうに井まつりとか、そういうのもその人たちのあれがあると思うんですよ。だから、極端に言えば、新港の外構の空いている部分でそういう養殖はできないものか、そういう勉強をしてみたいなと思います。

白石純一委員長

川上委員の御意見は、ウニの養殖の調査ができないかということではありますが、これはウニに限ったほうがいいのですか。あるいは、ウニなどの新たな養殖事業の調査ということでもいいのですか。

川上洋一委員

ウニとか、害虫に指摘されているものが結構お金になったりするものですから、海の場合は。そういうものをうまく利用して阿久根ならではの水産物の開発を。

白石純一委員長

それでは、ウニなどの新たな養殖事業に関する調査でいいですね。

濱崎國治委員

前ですね、温泉を活用したフグの養殖をしたらどうかということで、先進地に行って視察したいということで提案したのですけれども、どうも同調が得られなかったのですけれども、あるところでは海岸でなくても温泉地で養殖ができるということで、旧港のところの建物を活用して、今は旧港とか廃校がありますので、それを活用した、温泉でないと毒が抜けないということもあるようですけれども、そういうものを研究したら、施設はいっぱい遊んでいますので。川上委員がおっしゃるように捕るのは限界がありますので、おらんと捕れんわけですから。

白石純一委員長

それでは温泉などの資源を利用した、ウニなどの新たな養殖事業の調査ということで。

山田勝委員

まず藻がないということが最大の欠点なんですよ。しかし、今、温泉を利用したという話がありましたが、阿久根の温泉はそこ辺りで幾らでも出るわけだから、光礁とかその付近は出るんですよ。ですから、それを利用して、もしそういうフグの養殖ができるのであれば、それもヒット商品でしょうね。

白石純一委員長

山田委員も濱崎委員、川上委員の御意見に賛同するという趣旨だと思います。

竹原信一委員

私たちが例えば養殖したり藻を増やしたりするわけではなくて、実際は魚を捕っている漁業者、そして漁協の今の体制を私たちが知らずにアイデアを出しても生かすことはできないと思います。まずは漁協の状況、それから漁業者の皆さんの気持ち、そういった体制を私たちはまず知らない、何をやっても上滑りして消えていくと思いますよ。だから、まずはそういった現状を把握することから入って、その後、多様性を探る。いいアイデアを出しても、受け入れる側を理解しないと何にもならないと思います。

〔発言する者あり〕

白石純一委員長

竹原委員の御意見は、まず漁協の現状調査を調査項目に入れるべきだという御意見でした。

ほかにありませんか。

濱崎國治委員

長島町がなぜ後継者が多いかと言えば、それだけ養殖で収入があるんですね。若者が多くて子育ても非常に進んでいるということなんですね。だから、阿久根はなぜ後継者がいないかと言うと、漁業による所得が少ないから地元に残って水産業に従事する人が少ないというのが、私は1番の原因ではないかと思しますので、いわゆる所得向上ができるということであれば後継者もおのずから増えるのかと。今はもう、ほとんど水産業に従事しないで漁業者の子供さん方は出ていくわけですので、そういうことからすれば、そういう所得の上がるような方策をどのように確立していくかが問題だと思います。

白石純一委員長

今の濱崎委員の御意見は、例えば養殖事業ということを通じて、漁業者の所得向上という課題の解決が必要ではないかということだと思いますので、先ほどの養殖の件は、温泉等の資源を利用したウニなどの新たな養殖事業などを通し、所得向上を図るための施策の調査研究ということによろしいですか。

山田勝委員

先ほど竹原委員が言ったように、漁業者及び漁協の現状を知ることが大事だと思いますよ。黒之浜も1日でどしこも揚がらないし、魚を捕って水揚げをするのももう何人もいないですよ。巻き網とか棒受け網の人は幾らかおられますけどね。それは黒之浜だけではなくて倉津も全く同じですよ。魚捕りだった人がいろんなところに勤めていますよ。

白石純一委員長

それでは、新たな養殖事業等を一つの選択肢とし、漁業者の所得向上を目指すための調査。そして、その前段として、漁協の現状把握の調査。

濱崎國治委員

シジミも養殖になってくるんじゃないですか。

白石純一委員長

ですから、養殖をするのはウニなのか、シジミなのか、フグなのか、それはこれから調査をすればいいかと思えます。

木下孝行委員

とにかく可能性調査ということで、養殖と言ってもウニであったりシジミであったり、またほかのものもあるかもしれませんから、濱崎委員が言ったように、海のないところで温泉を使ってフグを養殖しているところがあるらしいです。私もテレビを見て少し知っていますけれども、そういうところをコロナが収まった後、視察の機会があれば行っていいのではないかと思います。

白石純一委員長

ほかに、この3番についてはないですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

それでは、大きな3つの件に出た件全てについて調査項目とすることによろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

1番については3点、耕作放棄地の解消。後継者の育成及びその環境の整備。有害鳥獣対策で捕獲、解体、加工、そして新たな減容化を含んだ効率的な運用の是非。

2番・3番はまとめて2番として3点、コロナ後を見据えた観光・経済対策。阿久根市の観光に何が求められているのかのニーズの把握。つながりのあるまちづくりの仕組みの調査研究。

3番については2点、漁業者及び漁協の現状把握の調査。新たな養殖事業を通じた漁業

者の所得向上に関する調査。

以上を調査項目とすることでよろしいでしょうか。

竹原信一委員

コロナの問題やワクチンの問題は私たちの所管のところなんですかね。その状況については産業厚生委員会でモニターしていくことが必要だと思いますので、それも入れていただきたいと思います。

白石純一委員長

竹原委員から、新たにコロナの状況についての現状把握ですか。

〔竹原信一委員「はい」と呼ぶ〕

を調査項目としてほしいという提案がありましたけれども。

木下孝行委員

阿久根市の現状把握ですか。

竹原信一委員

コロナウイルスの現状はどうなっているのか、そして将来どのようなことが起こりそうなのかということを知っていなければいけないと思います。そしてワクチンはどういう方向に進んでいくのかということを知りたいと思います。私たちはモニターしておく必要があると思います。

濱崎國治委員

コロナワクチンがどういう方向に進んでいくとか、我々が調査をしてもどうなるのでしょうか。国のレベルでコロナワクチンについての方向性が決められていきますけれども、それを阿久根の委員会でどう調査するのか、ちょっと分からないですね。

竹原信一委員

例えばワクチン接種は阿久根市役所が管理しているわけですよね。そういったことについて、阿久根市がどのように把握しているのかということを知っておく必要があるだろうと思って言ったわけです。

木下孝行委員

私も濱崎委員と同感です。調査項目に入れる必要はないと思いますけれども、委員会の皆さん意見としてあるのであれば、委員会に所管課を呼んで、今の状況を3、4か月おきに聞くとか、その程度しかできないと思います。

〔発言する者あり〕

白石純一委員長

休憩します。

(休憩 14:29～14:32)

白石純一委員長

休憩前に引き続き、委員会を再開します。

それでは、調査項目には含めませんが、定例会の都度、必要に応じて健康増進課に阿久根市の状況をヒアリングするということがよろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

それでは、そのように決めます。

そのほか何かありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

なければ、以上で産業厚生委員会を散会いたします。

(散 会 14時33分)

産業厚生委員会委員長 白石 純 一